

令和7年度 岡山県立岡山操山中学校 学校評価書

I 本校のミッション・ビジョン・具体的な学校経営目標・計画

※「令和7年度学校経営計画書」参照

II 学校自己評価

1 評価結果

「令和7年度 岡山県立岡山操山中学校 学校評価書（別紙）」参照

2 重点課題における分析・改善方策

(1) 【グローバル・リーダーの育成】

- ① 各学年の「未来航路プロジェクト」において「広い視野で課題を設定した」と回答した生徒の割合は64.2%で昨年度比+1.2Pであったが目標には達成しなかった。
行事ごとのキャリア・パスポートの活用が軌道に乗りつつある。生徒自身が6つの資質・能力の伸張を意識した目標設定や振り返りを行ったことにより、自己の成長につなげたり次の課題を見いだしたりする姿が見られた。【進路課・総合的な学習研究開発係】
- ② SOZAN 国際塾において中高合同での探究活動が増え、幅が広がりつつある。「SOZAN 国際塾の活動に参加させたい」と回答した保護者の割合が昨年度比+10.3Pと向上した。しかし、その活動に興味がある生徒の割合を増やすに至らなかったことから、SOZAN 国際塾の活動の具体や得られる知識や経験が何かを明確にしながら校内外に発信するようにしていく。【カリキュラム開発推進委員会】
- ③ 各教科で作成した「SOZAN Global Can-do List」をクラスルームに配信し、生徒と教員が内容を共有した。各教科、単元ごとに6つの資質・能力を意識しながら振り返りを行っているが、取組に差がある。【GLOBAL STUDIES・中学校】

(2) 【確かな学力の定着・授業力向上】

- ① 全教職員が、学校経営の重点目標の達成に向けた教科を越えた共通実践事項を意識した授業公開を行い、県内外視察者や県立中学校等、校内外・中高の教員合わせて延べ150名を超える参観があった。特に、今年度、授業研究テーマが中高共通したものに变更となったことで、中高が同じ視点で観合うことができた。「教科指導について、教員相互の研修を積極的に行っている」と回答した教職員の割合が100%となり、日常的に授業について語り合う風土が定着しつつあることがうかがえる。
【教務課・職員研修係】
- ② 単元を通して個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するよう意識した授業の推進を継続したことにより、「学校は必要に応じて個々の生徒に対応した教科指導をしている」と回答した割合は、昨年度比で生徒+3.7P、保護者+6.1Pとどちらも高評価に繋がった。
自己調整力を高めるため、AIを活用した授業の振り返りや学力推移調査等の振り返りを生徒自身が行い、自分の強み弱みを把握し改善を図らせる取組を行ったが、日常の家庭学習を自己調整することには課題があり、手立てを研究していく必要がある。【進路課】 【メディア課】

(3) 【生徒に対する総合的な支援の推進】

- ① ASSESS やアンケートの実施に加え、シャボテンログを2学期から導入したことにより、生徒の心身の状況を把握し見取る手立てが増え、生徒への教育相談や声掛けなど丁寧に関わることができた。【指導課】

(1月末時点)長期欠席生徒16名(うち不登校3名)

- ② 計画的な同学年・異学年ピア・サポート及びローテーション道德の実施などにより、共感的人間関係の構築と支持的風土の醸成に取り組んだ。人権アンケート「当てはまる」の回答割合が90.7%と目標を超えた。「間違いを気にせずに自分の考えや答えを発表することができる」と回答した生徒の割合が48%と、昨年度比+5Pとなったものの5割に満たないことから、引き続き、自己表現・自己決定の場を増やすとともに、自己肯定感を高める取組を推進する必要がある。

また、生徒のChromebookの不適切な使用事案があったことから、情報モラル、メディアリテラシーの向上のための講演会や授業の実施、家庭と連携した啓発を継続していく必要がある。

いじめの認知件数は5件、いずれも経過観察中である。

【指導課・人権教育係】【教務課・道德教育推進教師】【メディア課】

- ③ 交通委員会や交通担当の教員を中心に、登下校時の交通指導を年間通して実施できた。長年に渡り交通安全に務めた活動が評価され、岡山県警察本部から感謝状をいただいた。緊急地震速報を使用した抜き打ちの避難訓練を実施するなど、計画的に防災意識を高める活動を行った。【安全管理課】【指導課・交通指導係】

(4) 【開かれた学校づくりの推進】

- ① 昨年度から始めたさくら連絡網や学校ホームページと連動した公式 Facebook・Instagram が軌道に乗り、魅力的な情報発信ができています。各担当者が投稿する件数が増え、フォロワー数も伸びてきている。今年度末に学校ホームページを刷新したことから、今後は、SNSと同様に、更新等をタイムリーに行うことができるような体制づくりを行う必要がある。【教育評価係】【総務課】【メディア課】
- ② 外部での学校説明会に積極的に出向いたり、SOZAN 国際塾による学習支援ボランティアなどの社会貢献活動等を積極的に実施したり、中学校授業公開で選択授業のコミュニケーションやポスターセッション等を公開したりするなど、本校の特色ある教育活動を積極的に広報したことにより、令和7年度の入学者選抜の倍率が3倍を超えた。【総務課・広報活動係】
- ③ 健康教育講演会を全学年で実施するとともに、昨年度に引き続き中高の保健委員会が合同で保健学習講座を開催でき、心身の健康についての啓発ができた。
【安全管理課・指導課】

(5) 【組織の活性化・業務の効率化の推進】

- ① 学校教育目標の実現に向けたアクションプランを見直し、全教職員で今年度の重点について共有した。その実現に向けて、各課等の学校評価項目や各自の自己目標と連動させ、ベクトルを合わせた取組がなされている。また、共通の課題に対する教員研修等を計画的に実施できた。
今年度、担任と業務のバランスを重視した学年団構成や分掌等となるよう校内体制を大幅に変更した。課題に応じて年度途中であっても試行しながら改善を図った。
【カリキュラム開発推進委員会・教務課】
- ② 大会等の前を除き、部活動休養日として原則、平日は水曜日、休日は日曜日を設定し、ガイドラインに則した活動ができています。SOZAN 国際塾や部活動の大会等の引率に係る業務については、可能な限り勤務の振替の取得を促進した。年度途中であっても入試業務や会議時間の設定を工夫・変更するなど、勤務時間を意識しながら業務に当たる教員が増えた。【指導課・総務課・教務課】

Ⅲ 学校関係者評価

1 委員名

坂入 信也 (岡山大学教育推進機構 教授)
吉野 隆弘 (ベネッセコーポレーション学校カンパニー変革本部 副本部長)
渡部 義仁 (株式会社太陽堂 代表取締役)
服部 和博 (原尾島原町内会長)
橋本 玲子 (本校PTA副会長)

2 学校関係者評価結果

(1) 学校の重点目標や自己評価項目等の方法・内容

- 昨年度の改善方策を踏まえた取組がなされ、達成基準に基づき、自己評価が適切に行われている。
- 昨年度同様保護者の回答数が担保され、その数値に基づき評価・分析できたことは評価できる。
- SNS等による積極的な発信が周知されてきており、保護者アンケートの「分からない」と回答した割合が減少傾向にある。

(2) 進捗状況を踏まえた実際の取組・今後の改善方策等

- 中高の連携に力を入れるという取組がよい。SOZAN 国際塾に加え、未来航路プロジェクトにおいて中学校から高校だけでなく、高校から中学校へも何か仕掛けがあってもよいと考える。
- 毎朝の健康観察としてシャボテンログを活用した取組が軌道に乗っており、教育相談に繋がったケースもありよい。声に出しにくい生徒の一つの手段として引き続き活用しながら、生徒を丁寧に見取っていただきたい。
- 評価項目「未来航路の活動を通して、将来について考えるようになっている。」で低い評価となっていることに対しては、大学生でも将来が見えない難しい現状がある。また、キャリア≒職業観となってしまう傾向があるため、このような数値となっているとも考えられる。未来航路プロジェクトが必ずしもキャリアとつながる必要はないのではないか。生徒たちは、自分の好きな興味のあることを探究していけばよいと考える。
- 岡山操山中学校の生徒には、地域へのボランティア活動をしてもらっており、大変有り難い。来年度も、引き続きの協力をお願いしたい。

IV 学校評価を踏まえた今後の方向性

1 来年度の重点取組

(1) 【グローバル・リーダーの育成】

- ① 未来航路プロジェクトにおいて、探究的な学習を進めながら、職業観に偏ることなく将来の自分のなりたい姿が描けるよう、校内教員研修のテーマの柱に据え、声掛けや仕掛けを講じる。
- ② SOZAN 国際塾の活動で得られる知識や経験等が何かを明確にしながら、SOZAN 国際塾の活動であることが分かるよう校内外に発信することで、積極的かつ主体的に挑戦する生徒を増やす。

(2) 【確かな学力の定着・授業力向上】

- ① 中高共通の研究テーマを継続するとともに、引き続き、全教職員が、学校経営の重点目標の達成に向けた教科を越えた共通実践事項を意識した授業づくりを行う。授業公開・相互参観を通じた授業改善に取り組み、生徒の学力向上につなげる。
- ② 学力推移調査や生活実態調査等の振り返りを通して、自分の伸びを実感させ、強み弱みを把握し、生徒自身が学習面・生活面を改善していけるようにする。特に、AI等を活用しながら、日常の家庭学習に繋がる振り返りの在り方や課題の設定を研究し、生徒の自己調整力を高める手立てを行う。
- ③ 各教科や未来航路プロジェクトでの学習を効果的に行うために、DXルームと図書館の利用を促進する。

(3) 【生徒に対する総合的な支援の推進】

- ① ピア・サポートやローテーション道德の実施により、共感的人間関係と支持的風土の醸成を重視した学級・学校風土づくりを推進するとともに、自己肯定感等の自尊感情が高まるよう、校内外における自己表現・自己決定の場の設定・提供を増やす。
- ② シャボテンログやASSESSの結果などを分析・活用しながら、生徒一人一人の状態や生徒間で起こっている状況等を把握し、気になる生徒の早期発見・早期対応につなげる。
新たに設置される自立応援室を軌道に乗せるとともに、SC、SSW等と連携をとりながら、生徒支援体制の整備や迅速かつ適切な対応を一層推進する。
- ② 日常的に生徒のChromebookの使用状況を把握するとともに、情報モラル、メディアリテラシーの向上のための講演会や授業を継続的に行い、生徒の人権意識を根付かせる。

(4) 【開かれた学校づくりの推進】

- ① 学校自己評価アンケートの結果分析を踏まえ、次年度の取組の改善に活かす。
- ② 保護者への連絡はさくら連絡網の活用を軸とする。生徒・保護者、本校入学希望者が必要な情報をタイムリーに得られるよう、classroom やSNS、ホームページ等の活用を一層促進する。

(5) 【組織の活性化・業務の効率化の推進】

- ① 本校に求められる教育の質を維持しながら、各課や学年等からの提案を検討・試行しながらできる改善を進め、余白を生み出す。
- ② 学校経営アクションプランや学校評価・自己目標シートを連動させ、ツールとして活用しながら、目標の達成に向けた業務の改善に生かす。
- ③ ミライムの活用により勤務実態を把握し、超過勤務の解消につなげる。